

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を共有し、日々のミーティングやカンファレンスでの話し合いを通して実践につなげている	法人理念を玄関に掲示し支援の姿勢を明確にしている。事務所には法人理念、ホーム運営理念、年間事業計画を掲示し職員間に共有に努めている。月1回の職員会議の席上、振り返りの機会を持ち、理念の実践に取り組んでいる。ベテラン職員も多く理念を良く理解し利用者に寄り添う支援に取り組んでいる。また、中途採用の職員に対しては法人の研修会において理念についての時間を取り実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の外出や散歩時にあいさつを交わしたり、福祉広場や地域の防災訓練等に参加したりして、日常的な交流の機会を大切にしている	町会長より行事案内を頂き、地域の防災訓練、三九郎等参加できる行事に参加し、文化祭にも作品を出品し見学に出掛け、地域の一員として活動している。合わせて地域包括支援センターと連携を図り、地区の「オレンジカフェ」にも毎月利用者と共に参加している。地域のお祭り際には子供神輿や長持ちが来訪し利用者も楽しんでいる。更に、子どもたちの夏の恒例行事「青山様」では子供達が歌を歌い利用者との楽しい交流の時を持っている。また、短大生の職場実習の受け入れも行われ3日間の来訪があり、傾聴、料理等で利用者と一緒に体験している。ホームの周りが地域の皆様の犬の散歩コースでもあり散歩時には親しく挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して情報の発信に努めている。また介護実習生の受け入れを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回の会議で活動報告を行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。また町会などと予定を共有しながら、その後の計画などに反映させている	家族代表、町会長、町会顧問、民生委員、地域包括支援センター職員、別法人のグループホーム管理者、ホーム関係者の出席で2ヶ月に1回開催し、年2回は併設デイサービスと合同で開催している。活動や利用状況、行事報告、施設内研修等を報告し、意見交換を行いサービスの向上に繋げている。活動報告については2ヶ月分を写真に纏めより解りやすく報告している。また、議事録の作成は引き続き元町会長である町会顧問に作成して頂き地域に根ざした会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市からの派遣相談員の訪問時に利用者様の暮らしぶりなどを見ていただいたり、運営推進会議に包括支援センターに参加していただいたりして、協力関係を築くよう取り組んでいる	地区のオレンジカフェへの参加を始めとし地域包括支援センターとは様々な事柄について連携を取り協力関係を築いている。市の介護相談員が月1回来訪し利用者から傾聴中心に交流し気づいた事柄については口頭で報告があり支援に役立っている。市開催の看取り研修等には管理者が参加し、ホーム内にフィードバックし知識の向上に繋げている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームで行い、立ち会われる家族は調査員と話をし職員からも現況報告をしている。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を通じ何が身体拘束にあたるかを理解しケアに取り組んでいる	法人の方針として拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は安全確保のため施錠している。離脱傾向の強い利用者は現在いないが、所在確認には細心の注意を払いホールに必ず職員が1人はいるように心掛け、声掛けも忘れないようにしている。年2回法人製作のDVDを見ながら研修を行い理解を深め、合わせて内部のチェックリストを用い拘束のないケアについて確認を行い意識を高めつつ、法人の内部監査も受け拘束ゼロに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を通じ虐待のないケアに取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会への参加などを通じ学ぶ機会を持っている。必要に応じ関係者等と話し合い活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に時間を取り丁寧に説明を行い、理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月生活の様子をお知らせしており、面会時等に何でも言ってもらえる雰囲気作りを心掛けている。また月一回派遣相談員の訪問もあり、そうした意見や要望を運営に反映させている。	高齢化が進み思いの表出が難しい利用者も増えてきているがわかりやすい言葉で優しく問い掛けることで思いを受け止めるようにしている。家族の来訪は月2・3回の方から月1回位という状況であるが、来訪の際には居室、ホールにて利用者と寛いでいただき職員とも現状の話を親しくさせている。家族会は年2回開かれ、6月には両ユニット合同で「握り寿司」による食事を開き、50数名の家族の参加があり盛大に開催している。また、11月にはユニット毎に「おやつ作り」をすするとともに年間の活動報告を行い楽しい1日を過ごしている。更に、毎月利用者一人ひとりの様子を写真を添え手紙で知らせ、家族からも喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に意見を言える環境作りを努めており、カンファレンスや面接などで意見や提案を聞く機会を設けている	月1回職員会議を行い、連絡事項、行事連絡、各委員会の報告、事故報告などを行い、合わせてユニット間の情報交換も行き、18名の利用者全員のことを把握し支援の向上に繋げている。法人として人事考課制度があり、上期、下期それぞれ個人目標を立て自己評価を行い、年2回管理者による個人面談も行き目標に対しての振り返りと評価を行い、悩み事の相談の場ともなっている。また、法人全体のスポーツ大会や年末の忘年会等で職員同士の交流も深めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別に話を聞く機会を設けたり、資格取得に向けた支援を行うなど、向上心を持って働けるよう配慮している		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に研修に参加するよう促したり勤務の調整を行うなど、研修に参加できる機会を確保している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ地域にあるグループホームの運営推進会議に相互に参加し合うなど、交流や情報交換を行っている		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の様子を見ながら、会話を通じ聞き出したり表情を見たりしながら、ご本人が安心して生活できるような関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の要望を聞きながら信頼関係を築いていくよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況を確認しながら必要な支援が行えるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などの出来ることを一緒に行ったり、お茶の時間などに話し相手になったりしながら、共に暮らす者同士としての関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	訪問時にはご本人を囲み一緒に話をしたり、外出や外泊などをご家族等に協力してもらいながら、情報を共有し共に支える関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブ等外出時に馴染みの場所に出掛けたり、電話ができるよう、ご家族等と連携を図り協力しながら、途切れないよう支援に努めている	高齢化が進み友人等の来訪は少なくなってきたが、お孫さんの来訪を大変喜ばれ楽しみにしている利用者がいる。希望により事務所から家族に電話をされる方もいる。年賀状も個人別に家族にお出ししている。更に、家族と馴染みの美容院に行かれる方もおり、食材の買い出しにも交代で職員と共に馴染みの店に出掛け外の空気に触れている。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の配置や外出時の組み合わせに配慮をしたり、職員が共に会話に参加するなどしたりして、関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて手紙や電話で近況を聞いたり面会に行ったりしながら支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動の中から希望や意向を把握すよう努め、変化を見逃さないよう日々の気付きを共有しながら、カンファレンス等でご本人の立場に立ったケアを検討している	家族から聞いた情報を参考に、洋服選び、好きな食べ物等、選択できるような提案を行い思いを受け止めるよう心掛けている。遠慮がちな利用者についてはその人の生活歴も参考に入浴時また夜勤時に居室で話を聞き希望を把握するよう努めている。日々の気づいた言動等はケース記録と業務日誌に纏め、業務に入る前には必ず確認し支援に取り組むよう徹底している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人、またこれまでのサービス提供者等から話を聞くなどして把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズムや心身状態を注視し、記録やカンファレンス等で情報を共有しながら、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族との関わりの中から意見や想いを聞き、カンファレンス等での話し合いを通してそのときの状況に即した介護計画を作成している	職員は1~2名の利用者を担当し居室の整理整頓、不足する物品購入等を行っている。月1回のカンファレンスで意見を出し合い、また、モニタリングも行い計画作成担当者がプラン作成を行い、短期目標を6ヶ月とし見直しを行っている。状態に変化が見られる時には随時の見直しを行っている。家族の希望は来訪時に伺い、利用者本人にプランを説明し、本人の了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の言葉や表情などより詳しくわかりやすい記録に努め、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向に沿ったサービスが提供できるよう、柔軟な支援に努めている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のオレンジカフェへの参加や、派遣相談員の訪問など、安全で豊かな暮らしが楽しめるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時はかかりつけ医について丁寧に説明し、納得と同意を得られたかかりつけ医に受診できるよう支援している。主治医には状態を報告し、適切な医療が受けられるよう支援している	利用契約時に説明し希望を聞き対応している。現在は若干名の利用者が入居前からのかかりつけ医を利用している。他の多くの利用者はホーム協力医の月1回の往診を受け、その協力医への受診対応の方もいる。また、年1回は定期健康診断を協力医で受け万全の医療体制を取っている。合わせて週1回協力医の訪問看護師の来訪があり、利用者の健康チェックを行い、24時間対応で様々な相談にも乗っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護を含め、必要に応じ気づいた点や状態の変化を伝えて相談し、情報を共有しながら適切な医療を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院に行き状態の把握に努めるとともに、退院に向けた医療関係者との話し合いを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から説明を行い話し合いを始めている。随時ご本人やご家族の意向を聞き、主治医等とも相談し方針を共有しながら、チームとして最後まで安心して暮らせるよう支援している	重度化・終末期に対する指針があり利用契約時に説明している。終末期に到った時には家族、主治医、訪問看護師、ホームで話し合いを行い、家族の意向をお聞きし同意を頂き、医療行為を必要としない場合は看取り支援に取り組んでいる。住み慣れた所で最期の時を安らかに迎えられるよう、全職員が力を尽くし取り組んでいる。お見送りは利用者、職員全員でお見送りをし家族からも感謝の言葉を頂いている。看取り後には振り返りの時間をもち、職員の心のケアに努めている。最近の2年間に2名の利用者の看取りを行ったという。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習や施設内研修などを通じ知識や技術を身に付けられるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災訓練を行い、避難誘導や消火器の使い方などの訓練を実施している。また運営推進会議を通して地域との協力体制を築いていけるよう努めている	年2回春と秋に併設デイサービス、隣接ケアハウスと合同で、消防署、法人危機管理室の指導の下、防災訓練を実施している。水消火器を使つての消火訓練、消火器の使い方実習、避難誘導訓練では「火元に近い利用者を優先避難すること」、夜間想定訓練では「夜勤者が2名の利用者を避難誘導、ケアハウスからの応援者があること」、土砂災害時の避難指導では「ケアハウス3階へ避難すること」、通報訓練、緊急連絡網の確認等、多岐にわたり実施している。備蓄は「水」「米」「レトルト食品」「缶詰め」等が3日分準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちを考え尊厳を大切にしながら、一人ひとりに合った言葉かけや対応をしている	言葉遣いには特に気配りをし、優しい言葉掛けに心掛けています。排泄介助の声掛けは小さな声で、人前ではしないよう徹底している。呼び方は尊敬の念と親しみの気持ちを込め苗字に「様」をつけお呼びしている。プライバシー保護についての施設内研修を年1回行い、意識を高めつつ支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉を工夫しながら一人ひとりに合わせ出来るだけ選択が出来るような声かけをするよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちやペースを大切に、日課などを優先しないよう支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	選べる方には好きな服や髪型を自己決定できるようにし、職員が決める場合でもご本人の好みを考慮して決定するよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の希望を聞いたり、毎回の食事を写真に収め反応を記録するなどして一人ひとりの好み等を把握しながら食事に活かしている。また盛り付けや下ごしらえなど出来ることを一緒にいながら支援している	自力で摂取できる方が三分の二強で、一部介助と全介助の方が三分の一弱という状況である。利用者の力量に合わせ盛り付けから片付までお手伝いいただき、職員と話をしながら一緒に食事を摂り楽しい時間を過ごしている。献立は職員が冷蔵庫の中の食材で季節感が味わえる料理を作りお出ししている。お彼岸の「おはぎ」作りは全員で賑やかに行っている。また、正月、クリスマス、雑祭り等には特別食を楽しみ、誕生日には希望を聞き好きな物をお出ししている。更に外出レクリエーションでは大型ショッピングセンターのフードコートに出掛けラーメンや回転寿司等を楽しんでいる。家族から差し入れされる夏野菜等の食材も日々の調理に役立てている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録し、一人ひとりの状態や習慣に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合わせ毎食後口腔ケアを行っている		

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用い一人ひとりの排泄パターンの把握に努めながら誘導や声かけを行い、身体機能に合わせた介護用品も検討するなど、トイレでの排泄を大切にケアを行っている	自立の方は数名、一部介助の方が三分の二弱、全介助の方が数名という状況である。排泄表を用い一人ひとりのパターンに合わせ時間を見ながらトイレ誘導を行っている。また、お茶の前、食事前後にも声掛けを行うようにしている。合わせて排便促進を図るべく水分摂取に心掛け、毎朝の「ヨーグルト」、夕食後の「温かい牛乳」の摂取に取り組んでいる。また、パットの大きさや吸収力、使用時間を考えた使い方を工夫し、介護用品の負担軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	訪問看護師等と相談し、食事内容を工夫したり散歩や体操などの運動を行ったりして予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのペースで入浴出来るよう時間帯なども配慮し、入浴が楽しめるよう工夫している。拒否のある方には無理強いせず、時間や日を変更するなど状況に応じた支援を行っている	自立の若干名の方を除き、何らかの介助が必要な状況となっている。基本的には週2回の入浴を行っている。現状入浴拒否の利用者もなく楽しく入浴にいたっている。訪問時も「いつも職員に優しくお風呂に入れてもらってね」と笑顔で話される利用者がいた。季節に合わせて「ゆず湯」「菖蒲湯」等を行い季節感も味わっている。また、家族と温泉旅行に行かれる利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や状況を見ながら午睡や休息の時間を取るようにしたり、生活のリズムが安定するよう環境を整えるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報が常に見られるようになっている。変更があった場合には職員に周知し、状態の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の会話やご家族への聞き取りなどから一人ひとりの好きなことを把握し、家事や散歩、手芸など、利用者様が喜びや役割を持てるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や状態に応じて対応できるよう体制作りに努めている。また外出や外泊など、ご家族とも協力しながら支援している	外出時、自力歩行の方が若干名で、他の多くの方は車イス使用という状況である。天気の良い日にはホームの周りを散歩したり、玄関前のベンチに腰掛け外気浴を楽しんだり、ベランダに出てお茶を飲みながら景色を楽しんだりしている。冬場は広いホームの中を歩き機能が低下しないよう取り組んでいる。動ける時に動くということを基本に、少人数に分かれ花見、紫陽花・牡丹・紅葉見物、紅葉狩りに出掛け外食も合わせ楽しんでいる。また、家族と定期的に家に戻り外泊される方もいる。	

グループホームなごみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金を所持してもらい、買い物などの際は支払いが出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて手紙や電話のやり取りを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間にはのれんやモビール、花などを飾り季節感を採り入れ、また温度や明るさなどはこまめに調整するよう努めている	1日の大半を過ごすホール兼食堂は天井も高く十分な広さが確保され開放感がある。大きな窓からは北アルプスの山々や松本平が一望でき、素晴らしい景観を楽しみながら食事をしたり、作品製作、体操、ゲーム等で日々の生活を送っている。壁には敬老会や外出の様子など、月々の活動が写真で紹介されている。また、随所に季節の花も飾られ和らいた雰囲気漂っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの配置を工夫し、一人で過ごせたり仲の良い利用者様同士でくつろげるよう支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ使い慣れた馴染みの家具などを置いている。また花や写真を飾るなど、ご本人が馴染みのあるものに囲まれ居心地の良い空間になるよう工夫している	各居室とも整理整頓が行き届き、臭いも綺麗な中で生活していることが窺える。持ち込みは自由で、使い慣れた家具、イス、テーブル、テレビ、ハンガーラック等が持ち込まれ自分の生活の場が作られている。壁やタンスの上には家族の写真や季節の花等が飾られ、思い思いの生活を送っていることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかりやすい言葉で案内を書いたり、必要な目印を付けたりして、一人ひとりが自立した生活を送れるよう支援している		